

令和7年度 学生FD CHAmmit 学部で対応可能な意見に対する報告書

学生意見の集約

実施日	実施内容
令和7年7月19日	【具体的な実施方法】CHAmmit参加学生10名、教員3名、職員3名が本館1階ラーニング・コモンスに集まり、学内ディスカッションとして討論を実施した。

学部で対応可能な意見

※学生FD CHAmmit当日、以下の内容を基に、参加学生からご説明いただきます。

学生からの意見（学部・学科の問題点）	対応済	対応中	問題解決のプロセス
<p>【意見】 必修科目において、学年ごとのバラつきをなくし2年次からの履修科目が窮屈にならないようにしたい。</p> <p>【理由・経緯】 1年次と2年次で必修科目の割合が大きく異なるので、割合が少ない1年次に抽選科目を履修できる分履修しておきたい。うまく履修できず2年次に多くの必修科目と他の科目で忙しくなってしまうからである。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 時間割に余裕を持つことができるため、資格等の取得に集中することが出来る。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 学習内容を段階的に踏めるよう考えた上で、学年ごとで単位数に大きな差異が出ないように調整する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 学習段階の区分を再度作り直す必要性が出てくる。</p>
<p>【意見】 抽選科目における抽選状態を良くしたい。</p> <p>【理由・経緯】 多数の抽選科目に申し込んでも、半数以上の抽選に外れるという学生が多い。いわゆるラクタンに人が殺到してしまい、本当にその授業を履修したい思いで取っている学生が履修できない状況になっているからである。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 多くの人が履修したい時間割で組むことができ、学年で時間割に大きな差異が出ない。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 学生を収容できる教室を増やしたり、人が殺到する授業は時間割を増やす対策を取る。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 設備を増やすことはすぐに取り組める対応策ではないことが課題である。</p>
<p>・Wi-fi等の学習環境設備の改善 ・授業の遠隔参加 (ハイブリッド授業の積極的な導入)</p> <p>【理由・経緯】 センターホールや図書館棟二階の自習スペースのWi-fiやネット接続が弱く、授業の資料等が見れず、授業に支障をきたすことがあるという事例が多く出ている。そのため、ネット環境等の設備の改善をすることで、授業での学生の支障を軽減し、結果として、学生の学力及び学習意欲の向上が望めるため。</p>		○	<p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 学生にオンライン上で配布された資料や授業や説明会・講演会の円滑化が望める。また、ハイブリッド授業をさらに色々な授業で導入することで、教室のキャパシティを気にすることなく、履修者を増やすことができるため、上記の抽選の当たりやすさの改善策にもつながる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 ・Wi-fiルーターの設置場所の見直しや中継器の配備。 ・CMS-Certの存在の周知及び簡易化。 ・教員の必要最低限のICT活用能力。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 Wi-fiについて ・設備費用が掛かってしまう。 ・CMS-Certにログインしづらい。 ・携帯の機種によっては、ログインできない場合もある。 ハイブリッド授業について ・教員の負担が増えてしまう。</p>